

平成29年 7月 1日 (土)

学校法人三幸学園  
福岡リゾート&スポーツ専門学校  
校長 岩本 克也 殿

学校関係者評価委員会  
委員長 伊藤 啓司

## 学校関係者評価委員会報告

- 平成28年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

### 記

#### 1. 学校関係者評価委員

- ① 伊藤 啓司 (株式会社ルネサンス 教育研究チーム課長)
- ② 高橋 八十弥 (NPO法人北九州スポーツクラブ連絡会 理事長)
- ③ 藤田憲子 (福岡興業株式会社)
- ④ 森田 法子 (卒業生保護者)
- ⑤ 森田 和紀 (卒業生)

#### 2. 学校関係者評価委員会の開催状況

平成29年 6月 30日 (会場 福岡リゾート&スポーツ専門学校)

#### 3. 学校関係者委員会報告

別紙「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

## 平成 28 年度 学校法人 三幸学園 福岡リゾート&スポーツ専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 會田隆太

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 伊藤啓司

### 1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また、「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

### 2. 28年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

#### ① 重点施策振り返り

ビジョン「スポーツを通じて九州を明るく元気にする」

ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」

を設定し、同じビジョンを描いて「すべては生徒のために」という根本を意志した学校運営を行った。

全教職員が、未来の健康社会を創るのは福岡Rの教育からであるという認識の下、価値観を統一させるための情報共有と関係各所とのコミュニケーションを意志した。

生きた学びの場の創出を心掛け、生徒たちが学内で得た学びを学外で実践する機会を多く提供し、活躍できる人材育成に取り組む。

#### ② 学校関係者評価委員コメント

・優れた職業教育の実現に向けて、明確なビジョン、ミッションを持ち、教職員の方々が意識高く、実現に向けて様々な課題に向かい取り組まれていることを活動や教職員の方々の発言から推察できる。

・特に、カリキュラムやシラバス、コマシラバスの改訂を行い、学生が体系的に学べるよう科目間の連携を進めている点が高く評価できる。

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

#### (1). 教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

#### ① 課題

- ・社会のニーズに常に着目し、教育目標や育成人材像を設定していく精度を高める
- ・教職員の教育力向上、業界理解を促進するための情報共有に努める

#### ② 今後の改善方策

- ・社会や業界団体との関係性を高めていく活動を通じ、業界動向を正確に把握し、情報共有を図る
- ・教育理念、教育目標を浸透させるために、統一した指導を心掛ける

#### ② 特記事項

業界のニーズをより深く理解し、教育に活かしていくことを目的に、平成25年度より株式会社ルネサンスと産学連携協定を結び、さらに内外問わず業界企業との連携を深め、教育課程の共同編成やシラバスの共同開発を行い、イベントやボランティアなどに積極的に参加することで業界の即戦力となれる人材育成を積極的に実践している。

#### ④ 委員コメント

- ・前年同様、適切に取り組まれていると評価できる
- 更に良い学校運営を実現するために引き続き、以下の点を継続、検討願いたい
- ・社会環境は常に変化していくので、ウォッチし続ける姿勢が重要
  - ・業界との連携は十分に取れているように思われる。今後も継続的に教育の質を高めて欲しい
  - ・学校を閉鎖的な空間にせず、学生と社会とを繋ぐ架け橋の役割を今後も果たし続けて欲しい

## (2). 学校運営

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

### ① 課題

- ・ITを活用した情報共有、業務のスリム化により効率化に取り組む

### ② 今後の改善方策

- ・情報整理、業務整理を徹底しさらなる業務のスリム化、スピードアップに努める

### ③ 特記事項

毎週実施をしている運営基幹教職員の意思決定会議だけではなく、小会議を取り入れることで業務のスピードアップに取り組んでいる。また全教職員・講師による会議を年3回実施し、運営方針の浸透と共に、情報共有を積極的に行ない、統一意識をもって業務に取り組んでいる。

### ④ 委員コメント

- ・前年同様、適切に取り組まれていると評価できる
- 更に良い学校運営を実現するために引き続き、以下の点を継続、検討願いたい
- ・法令順守の徹底を継続願いたい
  - ・更に業務の効率化を図り、教員の皆さんが教育に出来る限り専念できる環境を作って欲しい

### (3). 教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

#### ① 課題

- ・社会のニーズに常に着目し、教育活動に取り入れる
- ・新たな教育手法を取り入れることによる教育の大系化

#### ② 今後の改善方策

- ・様々な業界団体との協力により教育改革に取り組み、生きた学びの場を創造する
- ・社会のニーズに対応するため、教職員の教育力指導力向上に更に取り組む

#### ③ 特記事項

平成28年度で健康スポーツ科、スポーツトレーナー科においてカリキュラム改訂が完成年度迎えることになった。今後はより精度を高めるための改訂を行うことが必要となる。

#### ④ 委員コメント

- ・前年同様、適切に取り組まれていると評価できる
- 更に良い学校運営を実現するために引き続き、以下の点を継続、検討願いたい
- ・講師の質、授業の質を高めるために継続的に取り組んでいただきたい

- ・専門学校教育として大学との差は職業実践的であるかどうかだと思ふ。その差を今後もしっかりと出していただきたい
- ・カリキュラム、実習、資格取得の指導体制など、常に見直し、進化願いたい
- ・職業人育成の観点から感受性、思考力、行動力を養うための指導の充実を期待している

#### (4). 学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

##### ① 課題

- ・資格試験の資格取得率の更なる向上
- ・卒業生の情報収集の卒後フォローの充実を図る
- ・退学率低減のためのシステム構築

##### ③ 今後の改善方策

- ・資格取得の意義を社会のニーズと照らし合わせ実施する
- ・授業内における資格取得対策を体系化する
- ・校友会の活動をSNSを活用し積極的かつ戦略的に広め、更なる充実を図る
- ・生徒情報を共有し統一理解のもと教育活動に取り組めるシステムを作る
- ・校友会情報を活用し長期的な学修成果を確認し、教育内容強化や改訂に努める

##### ④ 特記事項

平成28年度進路決定率(進学者も含む):100%(平成29年5月末日現在)

平成28年度退学率:6.4%

平成26年度より卒後教育を目的とした資格認定継続講習会を年3回実施

##### ④ 委員コメント

・前年同様、適切に取り組まれていると評価できる

更に良い学校運営を実現するために引き続き、以下の点を継続、検討願いたい

- ・卒業生の卒業後のキャリアなども教育の評価として組み込めると望ましい
- ・卒業生を追いかけていくことで、長期的な学修成果を確認し、在校生向けの教育内容強化や改訂に役立てていくことも検討できるのではないか

## (5). 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	4
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

### ① 課題

- ・保護者への情報共有を行うことで、進路・就職支援、生活環境の支援体制の改善が図れる
- ・部活動などの課外活動における危機管理体制のシステム化が必要
- ・卒後支援の更なる充実を図る

### ④ 今後の改善方策

- ・経済的側面に対する支援の充実を図れるように保護者との連携を強化する
- ・保護者との更なる連携を図るために、年2回以上の保護者連絡を徹底する。

### ⑤ 特記事項

特になし

### ④ 委員コメント

- ・前年同様、適切に取り組まれていると評価できる
- 更に良い学校運営を実現するために引き続き、以下の点を継続、検討願いたい
- ・卒業生のキャリア形成に役立つようなフォローアップ的な授業があると望ましい
  - ・中、高生のキャリア教育、職業教育に貢献する活動を検討しても良いと思う



## (6). 教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

### ① 課題

- ・授業内容の改訂により施設、設備の更なる充実が必要
- ・視聴覚教材の充実

### ② 今後の改善方策

- ・学べる環境の充実を図ることで習熟度向上につながる。視聴覚教材等の管理を徹底し、環境整備に努める。

### ③ 特記事項

全教室に視聴覚教材が活用できるように整備を行った。

防災安全管理のために「防災マニュアル」を全生徒教職員に配布し、心肺蘇生法の習得も全生徒教職員に対して行っている。

### ④ 委員コメント

- ・前年同様、適切に取り組まれていると評価できる
- 更に良い学校運営を実現するために引き続き、以下の点を継続、検討願いたい
- ・今後も学生数に応じて、設備を増強して欲しい
  - ・学生数や社会の変化に合わせ適宜施設を更新して欲しい

(7). 学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・イメージと現実のギャップをなくし入学してもらおう

② 今後の改善方策

- ・入学後の学校生活や卒業後のキャリアデザインを明確に打ち出し、目的喪失による中途退学者をなくす募集活動を行う

③ 特記事項

特になし

④ 委員コメント

- ・前年同様、適切に取り組まれていると評価できる
- 更に良い学校運営を実現するために引き続き、以下の点を継続、検討願いたい
- ・引き続き、職業観など卒業後の具体的なイメージを持ち入学を決められるように対応願いたい

(8). 財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

中長期事業計画は2012年に策定したが、当該計画は前倒しで終了しているため、今年度に更なる中長期計画を策定する必要性がある。

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

ホームページ上の公開については抜粋版が公開となっているが、今後は事業報告などの詳細な情報の公開が必要。社会的なニーズに即した学校の設置・増加に伴って、今後は更なる業務の多様化に対応した体制強化と整備が必要と考える

② 今後の改善方策

【中期計画】

今年度到新中期計画を策定する予定である。

【財務情報の公開】

今年度よりホームページ上の法人の事業報告書を公開する予定である。なお、当該報告書には財務情報にかかる詳細データを掲載する事となっている。

③ 特記事項

特になし

③ 委員コメント

・特になし

(9). 法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

- ・法令遵守が徹底できているかの再確認と法令遵守の推進

② 今後の改善方策

- ・関係法令の理解に努め、細かな部分においても適正な運営ができるように再確認を行う

④ 特記事項

特になし

④ 委員コメント

- ・前年同様、適切に取り組まれていると評価できる

更に良い学校運営を実現するために引き続き、以下の点を継続、検討願いたい

- ・この委員会を含め、外部の声を積極的に活用し、引き続き教育の質をより高めて欲しい
- ・引き続きコンプライアンスの遵守を徹底し、ステークホルダーの信頼を高め続けて欲しい

## (10). 社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

### ① 課題

- ・地域貢献活動において更なる貢献の余地がある

### ② 今後の改善方策

- ・官学連携を意識した地域貢献活動に取り組むことで、地域社会と生徒の成長に貢献していく

### ③ 特記事項

ボランティア活動に関して、本校では学内で得た学びを実践する場として「学外実習」と位置付け、企業様と共に地域貢献を行うことを教育の一環として展開している。

特に公益財団法人福岡市体育協会や在福プロ球団の福岡ソフトバンクホークス、アビスパ福岡との連携、また日本ラグビーフットボール協会との連携を積極的に行っており、生徒は在学期間中に複数回学外実習に参加をしている。その結果、地域やスポーツ業界関係者から本学の取り組みに対してご評価頂いている。

### <事例紹介>

#### ・スタージャンプ福岡

平成19年設立当初より公益財団法人福岡市スポーツ協会、福岡ソフトバンクホークス、アビスパ福岡、コココーラレッドスパークス、宗像サニックスブース、九州電力キューデンヴォルテクス、ライジングゼファー福岡、福岡Jアンクラス他と子どもたち、さらには保護者に種目を超えてスポーツの素晴らしさや、体を動かす楽しさを伝え、スポーツを遊ぶ子どもたちを増やすための活動を実施している。

#### ・雁の巣レクリエーションセンターサマーキャンプ

平成21年度より、小学4～6年生を対象とし、夏休みを利用した宿泊型体験学習におけるプログラム提供を行っている。

#### ・JFA キッズサッカーフェスティバルユニクロサッカーキッズ

平成15年の開催当初より「多くの幼年期のこどもたちに、サッカーを通して身体を動かすことやスポーツをすることの素晴らしさを体感してもらいながら、心身の健やかな育成に貢献していきたい」という社会貢献性の高いテーマに共感し、財団法人福岡県サッカー協会と共に6歳以下の園児たちへのスポーツ普及活動を行っている。

#### ・アサヒ緑健スポーツメセナふれあい健康ウォーク

平成15年の開催当初より、高齢者を中心としたウォーキングを通じた健康の保持増進活動に参加をし、さらに、ウォーキング中のサポートのみならず、ウォーキング後のケアを実施することによって、ウォーキングを生涯スポーツとして定着させるための活動のサポートを実施している。

・パラスポーツサポート

福岡県知的障害者スポーツ大会、九州視覚障害者サウンドテーブルテニス大会、九州盲人スポーツ大会、福岡県身体障害者スポーツ大会などのパラスポーツ大会の運営サポートを通して、パラスポーツの理解と発展のための活動を実施している。

④ 委員コメント

- ・前年同様、適切に取り組まれていると評価できる
- 更に良い学校運営を実現するために引き続き、以下の点を継続、検討願いたい
- ・今後も社会性を育む上でボランティア活動などに積極的に取り組んで行って欲しい
- ・教育資源を活かした地域貢献を今後も積極的に行って欲しい

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本評価の結果を踏まえて、継続的により良い学校創りに努めていきたい。その中でも今以上に地域や社会に貢献していける学校となるよう努めていきたい。専門学校全体として職業やキャリアを重視して産学連携を意図した取り組みが進んできており、より産学連携＝キャリア支援の推進と生きたカリキュラムの作成とをリンクさせ、教育環境の充実を図ることで、本学のビジョン・ミッションの達成に取り組むたい。

以上